

審査の結果の要旨

氏名 前川 真基

本研究は、客観的な指標が何もない定常流左室補助装置（LVAS）装着患者の LVAS 装着術中人工心肺（CPB）離脱直後の循環管理において、経食道心エコー図の解析により測定される拡張期左室内圧較差（IVPD）が初の客観的な指標となる可能性を検討したものであり、以下の結果を得ている。

- 1、単施設後方視的観察研究 13 症例で解析した結果、非線形回帰分析により LVAS 流量／BSA と IVPD は正の相関関係を示した（ $p < 0.001$ ）。
- 2、各症例の個別解析によって、LVAS 回転数を徐々に上げていく中で、IVPD のピークと LVAS 流量のピークが一致する症例が 8 症例、IVPD のピークが LVAS 流量のピークに先んじて認められる症例が 5 症例認められた。

以上、本論文は、LVAS 装着術中の急性期管理において、IVPD が LVAS 装着患者の新たな臨床指標となる可能性を追求した。本研究は、今まで客観的な臨床指標が何もなかった LVAS 装着術中の麻酔循環管理において、重要な貢献をなすと考えられる。よって本論文は博士（ 医学 ）の学位請求論文として合格と認められる。